

(別記)

令和5年度佐々町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、南北に貫流する佐々川流域に農地が開けており、主に水稲 158.6ha、飼料作物 64.2ha、施設野菜 3.4ha が作付けられている。また、中山間地においては、水稲、飼料作物を中心に作付けられており、最近では露地野菜の作付も行われている。

本地域の農業は、石炭産業の隆盛により、早くから兼業化が進み、農地の有効利用はなされておらず生産性も低い。農業従事者数も年々減少し、高齢化と後継者不足がその拍車をかけている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

適地適作の推進

中山間地のイノシシ等の被害が多い集落での作付を、当該鳥獣が嫌いな香味野菜等の高収益作物への作付転換を進めることにより収益力の強化を図る。また、収益が上がることにより、生産性を向上していく中で、保全管理地や耕作放棄地への作付を進め、作付面積の拡大を図る

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

転作確認時等を利用し、数年以上水張りをしないで畑作物のみを生産している農地の把握を行い、今後も水稲作に活用される見込みがないか点検（確認）する。

また、点検結果を踏まえ、該当圃場の担い手に畑地の意向を確認し、戦略作物等の導入を推進し、産地交付金を活用した支援を行う。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた生産を基本としつつ、一等米率や収量向上のため、高温耐性品種の拡大を進めるとともに、省力化や低コスト技術により生産の効率化を推進する。

(2) 非主食用米

WCS 用稲

新規需要米は、取組農家が増加していることから、引き続き推進する。

特に新規需要米における担い手の集積面積において、産地交付金を活用し、現状以上に拡大し、生産の効率化を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

産地交付金を活用し、対象作物の二毛作を現状以上に拡大し、産地化を推進する。さらに、担い手等への面積の集積を促進し、生産の効率化を図る。

特に飼料作物において、飼料価格高騰による自給飼料の推進のため、二毛作による水田の有効利用並びに耕畜連携の取組を推進する。

(4) 高収益作物

主食用米に代わり、野菜や花き・花木の作付を推進する。

特に産地交付金を活用し、地域振興作物（いちご、ブロッコリー）加工業務用たまねぎの二毛作を現状以上に拡大し産地化を推進する。さらに、振興品目における担い手の面積の集積を促進し、生産の効率化を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

~ 8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）

所属名	役職	氏名
佐々町農業委員会	会長	吉野 裕
	会長職務代理	濱野 努
	北部班長	池田 邦義
	南部班長	藤永 茂
営農組合長会	古川地区営農組合長	迎 孝一
	志方地区営農組合長	中村 三郎
	里地区営農組合長	松田 弘海
	野寄地区営農組合長	松永 義章
	栗林地区営農組合長	野中 光浩
	口石上地区営農組合長	森田 謙介
	口石下地区営農組合長	荒木 福士夫
	木場地区営農組合長	吉岡 智信
	土手迎地区営農組合長	林 康幸
	浜迎地区営農組合長	田中 茂弘
	水道地区営農組合長	吉野 裕
	四ツ井樋地区営農組合長	田島 禎輔
	市瀬1地区営農組合長	濱野 努
	市瀬2地区営農組合長	益本 司
	市瀬3地区営農組合長	北川 英明
	神田上地区営農組合長	大瀬 敏幸
	神田下地区営農組合長	吉永 政彰
	角山地区営農組合長	山本 昭男
	江里地区営農組合長	北川 賢一
大茂地区営農組合長	大久保 正己	
長崎県農業共済組合	佐世保支所 支所長	道下 和弘
ながさき西海農業協同組合	理事	辻 勇典
	佐々支店長	馬場 郁光
	させば北部営農経済センター長	濱本 善宏
国営佐々土地改良区	理事長	谷本 忠利
佐々東部土地改良区	理事長	藤永 繁
佐々町認定農業者協議会	会長	宝持 雅祥
長崎県 県北振興局 農林部	南部地域普及課長	田中 重孝
佐々町	佐々町長	古庄 剛
佐々町地域担い手育成総合支援協議会	会長	作永 善則

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和5年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	159.0	0.0	145.0	0.0	145.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
飼料用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
米粉用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	13.6	0.0	13.7	0.0	13.7	0.0
加工用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麦	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9	7.9
大豆	5.6	0.0	4.7	0.0	4.7	0.0
飼料作物	78.1	49.0	63.6	38.1	63.6	38.1
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
そば	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地力増進作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高収益作物	8.5	0.4	8.7	0.4	8.7	0.4
・野菜	7.8	0.4	7.9	0.4	7.9	0.4
・花き・花木	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0
・果樹	0.5	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0
・その他の高収益作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.3	0.0	0.6	0.0	0.6	0.0
小豆	0.3	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
未契約大豆	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
畑地化	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	いちご、ブロッコリー	振興作物助成 （基幹）	作付面積の拡大 （ha）	（R4年度） 3.2	（R5年度） 3.7
2	加工業務用たまねぎ、 ブロッコリー	振興作物助成 （二毛作）	作付面積の拡大 （ha）	（R4年度） 0.4	（R5年度） 1.8
3	戦略作物（基幹）、いち ご、ブロッコリー（加工 業務用を含む）、加工業 務用たまねぎ （別紙）その他作物助成 （基幹）対象作物	担い手加算助成 （基幹・二毛作）	作付面積の拡大 （ha）	（R4年度） 27.2	（R5年度） 28.4
4	高収益作物等 （別紙一覧のとおり）	その他作物助成 （基幹）	作付面積の拡大 （ha）	（R4年度） 5.2	（R5年度） 6.5
5	戦略作物、そば、なたね	戦略作物、そば、なたね助成 （二毛作）	作付面積の拡大 （ha）	（R4年度） 46.6	（R5年度） 54.2

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:長崎県

協議会名: 佐々町地域農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	振興作物助成(基幹)	1	18,000	いちご、ブロッコリー	畦畔を除く対象作物の作付面積への支援
2	振興作物助成(二毛作)	2	18,000	加工業務用たまねぎ、ブロッコリー	畦畔を除く対象作物の作付面積への支援
3	担い手加算助成(基幹・二毛作)	1・2	8,000	戦略作物(基幹)、いちご、ブロッコリー(加工業務用を含む)、加工業務用たまねぎ(別紙)その他作物助成(基幹)対象作物	畦畔を除く対象作物の作付面積への支援 販売目的で対象作物を生産する認定農業者及び認定新規就農者が対象
4	その他作物助成(基幹)	1	11,000	別紙のとおり	畦畔を除く対象作物の作付面積への支援
5	戦略作物、そば、なたね助成(二毛作)	2	11,000	戦略作物、そば、なたね	畦畔を除く対象作物の作付面積への支援 「主食用米と対象作物」又は「戦略作物と対象作物」の組み合わせによる二毛作

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。